

今月のコラム

日本人の DNA “園芸文化” を次世代へ!

ガーデンを考える会 会長 上野和治



今期、『ガーデンを考える会』は20周年を迎え、園芸業界と共に庭（ガーデニング）がどのような方向に向かおうとしているのか？改めて考えなければならない時期です。この大切な時に、当会の代表という重職を任せられ困惑しております。各方面の諸先輩方がたくさんおられる中で、恐縮すると同時に、不安で一杯ですが、指名された以上、任期を務めさせていただきます。

この会は業界団体として、異色を放っています。本来、植物、資材、サービスなどと分野に分かれた中で将来への展望、役割、方向性をはっきりとさせ、見据えていくことが必然であると考えます。しかし、当会は業界の異業種交流会として植物、資材など園芸の一分野を越えて盛り立て、繋がっていかなくてはなりません。これは至難の業ではないかと思いますが、いろいろな業種が集まっているということは逆にそれを強みに変え、多方面から絡んでいくことができるということができると、楽観的に考えています。

日本の園芸文化は明らかに時代の曲がり角にあり、人口問題、企業倫理、教育、子育て、社会秩序、国の借金などいたるところで時代は悲鳴を上げています。世界中からも日本は大丈夫？と見られているかもわかりません。悲観論ばかりでは何も変わらないですし、良くならないとは思いますが。

時代を遡れば、江戸時代の園芸文化は庶民の隅々にまでしっかりと根ざしており、“すばらしい国！”と海外からこられた人たちを驚かしていたと聞いています。当時のそれぞれの人たちにとって園芸はそれぞれの楽しみであり、必要不可欠な生活の一部であったようです。生き物に手間をかける行為は一見、無駄な事のように見えるかも知れませんが、それが美意識を高め、誠実さを養い、人の生き方、本来の幸せとは何かを私たちに教えてくれていたのではないのでしょうか？

昨今、文科省でしきりにアカデミックな教育よりライフスキル教育を！と叫ばれています。子供たちに『本当の生きる力を！』ということでしょう、私もその通りだとおもいますし、それを次の時代を担っていく子供たち（The child is father to the man. 子供は成人の父）にしっかりと広めていければ、これほど素晴らしいことはないのではと考えます。私たち園芸業界に携わる者は庭（ガーデニング）、植物を通してこの役目を十分担っていけるのではないのでしょうか？

皆様方と力を合わせて、生き物（植物）の素晴らしさ、そして人間として文明社会を生きていく上で、生き物と係ることの大切さを、時代を越えて伝えていけるのは園芸（ガーデニング）だと思います。植物は全てのことにとしっかりとリアルに繋がることができるのです。同時に我々には植物を愛でる園芸文化のDNAがしっかりと受け継がれているのです。

今後、当会は、多方面からいろんな方法で活性化を図っていきます。今回、私がお役目をお受けさせていただきましたのもこの辺りにあるのではと思います。『ガーデンを考える会』は大きく変わりうると思いますし、皆で変えていかなければならないと考えます。その役目に私自身力不足ではございますが、理事会、会員皆様方のお力添えを最大限にお願いして、当会を盛り上げていこうと考えていますので、ご協力の程よろしくお願いたします。



平成 28 年度通常総会報告

20周年を迎えた総会
新会長に上野和治氏を選任

20周年を迎えた当NPO法人ガーデンを考える会は、6月7日午後1時半より、大阪駅前の貸会議室ユーズ・ツウで平成28年度通常総会を開催。藤田茂副会長（緑花技研）の司会ですすめられ、水野隆会長（ハクサンインターナショナル）のあいさつに続き、来賓は恒例の環境省からで今回は環境省京都御苑管理事務所田村省二所長より祝辞があった。

総会では中島吉之理事（中島商事）が議長に選ばれ、議事録署名人上野和治理事（レイ・ハウス）、村雲俊作理事（豊明花き）、書記に吉村定貢理事（大和プラ販）を選任。会員数67社のうち出席28社、委任20社で会員の過半数が出席して総会が成立したことを報告した後、平成27年度事業・決算、28年度事業計画・予算案などが原案通り承認された。

28年度事業計画では今までの研修事業、東京五輪プロジェクト、東日本震災支援事業等のほかに、新たに20周年記念事業、フリーペーパー創刊を計画している。

今回は役員改選の年で、6年間会長を務めた水野隆氏に変わり上野和治氏（前副会長）が新会長に選ばれ、副会長に中島吉之氏が選ばれた。

総会後は、20周年記念式典と記念セミナーが行われたが、式典は桑田博史20周年記念事業委員長（ハイポネックスジャパン）の進行ですすめられた。20周年記念誌の刊行が発表され、続いて会発足当初より20年事務局を務めている山川正浩事務局長（グリーン情報）から発足の経緯があった。感謝状と記念品の贈呈式典では、10周年以降の10年間に功労のあった5氏に上野新会長より贈呈された。表彰されたのは小塚純一（花ごころ）元会長、水野隆前会長、丸山盛生（元アップルウエア）元副会長、伊藤孝巳（伊藤商事）前監事、前田悟（JA東海グリーン）前会計理事。

記念講演は中河元研修委員長（ニチカン）の司会で進められ、竹中工務店・吉田幸正氏より「ダンチ デ ノウチ～UR余剰住宅を活用した消費者主体の農業ビジネス」とフローラトゥエンティワン・坂寄潮氏より「常識を疑え！そして種を播こう～自然からのメッセージに耳を傾けて30年」の2題が行われた。



新会長に選ばれ、挨拶する上野会長



感謝状を贈呈された方。右より小塚氏（代理）、水野氏、上野会長、前田氏、伊藤氏、丸山氏（代理）



非会員も含め多くの職講師が参加したセミナー会場



吉田幸正氏（竹中工務店）



坂寄 潮氏（フローラトゥエンティワン）



花と緑のおもてなしガーデン作成報告

平成27年6月21日
有限会社 緑花技研 藤田 茂

都立シンボルプロムナード公園ヴィーナスフォート前「花と緑のおもてなしプロジェクト」におけるガーデンを考える会のタイトル「オリーブの冠」を作成しました。メインはオリーブの古木3本と、ベコニアをはめ込んだフラワーボール3基です。背面は壁面緑化用の杭のみ昨年の物を使用し、ネットを新設してマンデビラを植え付けました。両端には区画を区切るためのパパイアを植栽し、地被はイボメア3色で仕上げました。

6月11日にオリーブのコンテナ3基をユニック車で設置し、植物他の資材の搬入を行いました。植付け作業は12日にボランティアで参加して頂いた皆さんと行いました。灌水装置は昨年の物を使用しましたが、ジョイント、電池等不足部品がありましたので13日に最終的に完成しました。

資材協力は下表のとおりです。

社名	植物・資材名	数量
株式会社伊藤商事	フラワーボール	3基
株式会社芳樹園	オリーブ大木	2本
横浜植木株式会社	オリーブ大木	1本
株式会社フラワーオークションジャパン	マンデビラ	
株式会社JA東海グリーン	パパイア	
株式会社レイ・ハウス	ベコニア	
株式会社ハイボネックスジャパン	マグアンプK	



ご参加頂いた方は、セキスイデザインワークス(株)、E&Gアカデミー、(株)フラワーオークションジャパン、ジュリエッタガーデン、(有)緑花技研の方々です。



シンボルプロムナード公園 樹木見学ツアー 8月5日開催

花の少ない夏季に長期間開花する植物や新樹種が多く使われているシンボルプロムナード公園に、夏、実物を見て触れられる「樹木見学ツアー」を今年も開催します。

昨年30名程のご参加で好評をいただきました。今年は、新樹種についての解説資料・写真を配布し、新樹種を選択する場合の留意点等についても解説する予定です。講師は(有)緑花技研 藤田茂氏(当会副会長)。ぜひ、ご参加ください。

日程：2016年8月5日(金) 見学会 15:30~17:00 (参加費2,000円)
懇親会 17:30~(参加費3000円程度)

場所：シンボルプロムナード公園(東京都江東区青海1-2-1)見学
申込先：FAX 03-5718-3290 mail s-fujita@r-giken.co.jp (有)緑花技研

・ご参加者名・社名・連絡先電話&メール・懇親会参加有無 おしらせください
申込締切：7月29日(満席次第締め切り)



五輪プロジェクト委員会 藤崎幹士、桑田博史、小松正幸、平田隆明



震災支援活動

第11回被災地小学校支援活動報告

支援委員会 村雲俊作

2016. 6/9・10で「NPO法人ガーデンを考える会」として東北の小学校へ被災地支援に行ってきました。今回は、気仙沼と釜石の小学校15校へ支援物資を贈り、その内気仙沼の3小学校にてプランターへの植え付けと花育学習を行ないました。2011年津波発生年に1回目の支援活動を始め、その時の1年生が6年生になるまで続ける事を計画し、6年目足掛け11回の活動を行ってきましたが、今回の支援をもって終了する事を7つの支援先小学校へ挨拶を兼ねて訪問し報告させて頂きました。



写真は前の晩の、2次会でプレハブの居酒屋へ交流の一環と称して行きました。今回のフルメンバーは総勢8名です。このプレハブも年内に出なければならず、出るための資金も無いのにどうしようかと女将さんが言っていました。

当日は、2班に別れそれぞれ5校ずつ10校を分担して出発。写真は、気仙沼九条小学校5,6年生の児童に説明をしているシーンです。この日は、真夏並みの日差しで集中力が続かない。説明をして判る事は、事前の準備から子供達の集中力を如何に切らさないように教えることの難しさです。何度やっても上手くいきません。先生の存在に脱帽。



途中、5メートル程の嵩上げ工事が至る所で行なわれています。写真はその上に立つマンションです。これで安全が確保されるのか全く判りませんが、復興工事は確実に進んでいるように映ります。学校の校長先生に最近の状況について伺うと、多くの学校の運動場にある仮設住宅の住人は少なくなっている。子供達は随分元気になった。しかし、今は親の収入事情が向上せずそのストレスが子供にきていると言われました。



所感

子供達の心を花で癒すことが出来たら。そのお手伝いを少しでも出来たらと考え始めた支援。今回で一端終了する運びを告げる中で校長先生からの言葉に感謝の念と、こうして終わっていく寂しさを語られ止める罪悪感のようなものを感じずには居られませんでした。また、こうした支援を継続させて頂いた当会に感謝したいと思います。東北小学校への支援は打ち切りますが、支援事業は、28年度も予算として計上しており、形を代えて継続させる計画で居ります。具体的な内容が決まりました際には説明ご案内を申し上げます。引き続きご支援いただきますよう改めましてよろしくお願い申し上げます。



▲6年間でいただいた御礼文集の一部。作文・写真・イラストなど

会員紹介

大和プラスチック株式会社

弊社は昭和33年に創業し、来年で60周年を迎えます。

創業以来、グリーンのある豊かな生活環境づくりをめざし、植物の育成にマッチした商品、ライフスタイルの変化に応える商品を開発、提案をつづけてまいりました。現在では鉢・プランター等のプラスチック成形品だけでなく、FRP製大型プランターやハイドロカルチャー用のレインボーサンド、挿し木・種まきに見えるロックウール等を取り扱っております。

今後も多様化するニーズを敏感にとらえ、園芸業界の発展につながる製品作りに邁進させていただきますので、ご愛顧、お引き立てのほどよろしくお願いいたします。



〒635-0004 奈良県大和高田市藤森213
TEL 0745-22-5863 FAX 0745-22-7502 HP <http://www.plastic.co.jp>